

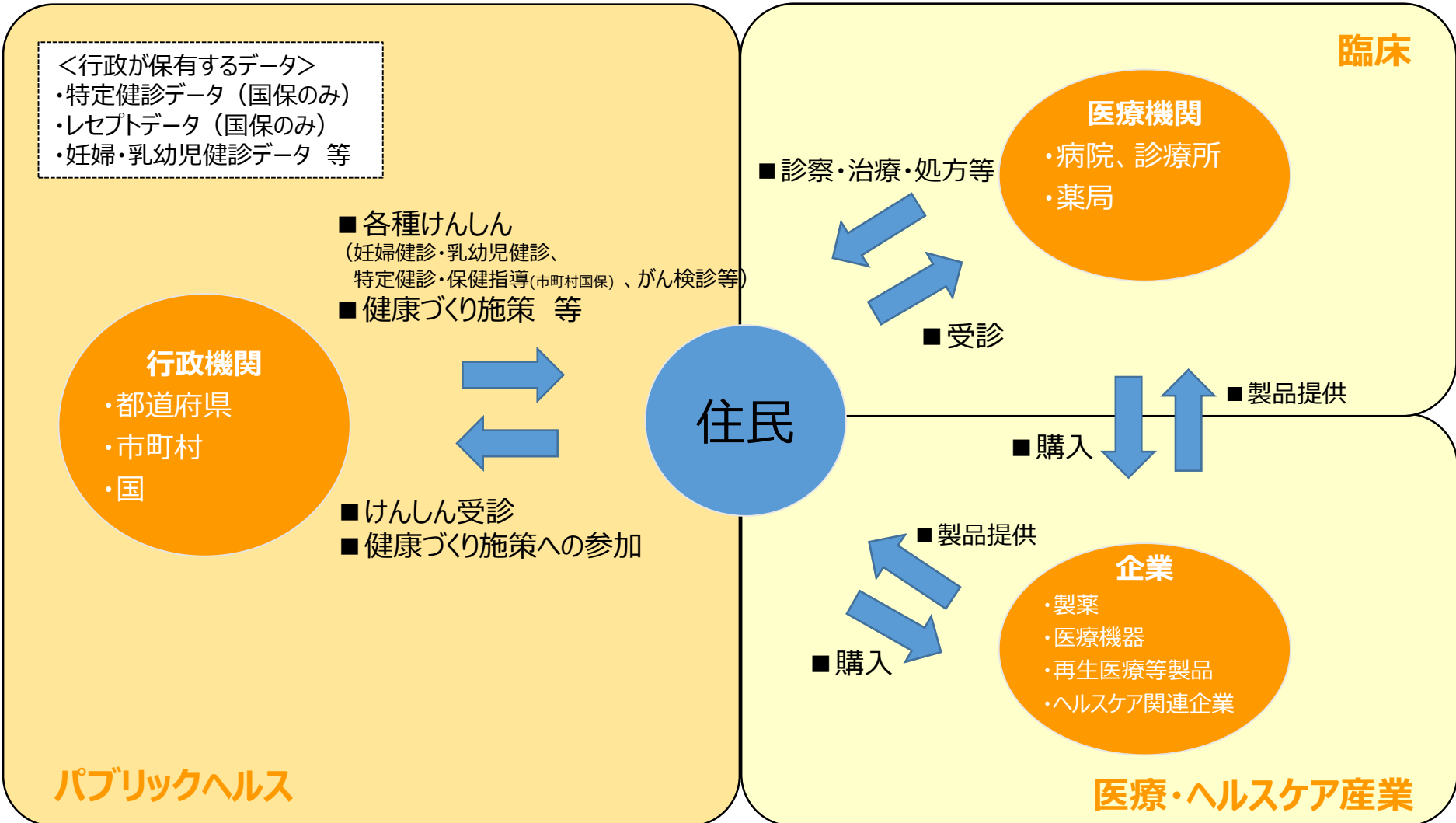
# データヘルス戦略について

スマートシティ戦略タスクフォース

# 目次

1. データヘルスの3つの領域
2. データヘルスにおけるICTの活用例
3. 健康・医療分野における市町村の役割の拡大
4. 効果的な保健事業のアプローチ
5. 大阪市の取組み
6. 大阪府の取組み

# データヘルスの3つの領域



# データヘルスにおけるICT技術の活用例

## ICT技術の活用

- <行政が保有するデータ>
- ・特定健診データ（国保のみ）
  - ・レセプトデータ（国保のみ）
  - ・妊婦・乳幼児健診データ 等

- 各種けんしん  
(妊婦健診・乳幼児健診、  
特定健診・保健指導(市町村国保)、がん検診等)

レセプトデータの  
蓄積・分析

健診データの  
蓄積・分析

けんしん受診  
の参加

パーソナルヘルス  
レコード (PHR)  
(電子母子手帳など)

### 行政機関

- ・都道府県
- ・市町村
- ・国

## パブリックヘルス

### 住民

## 臨床

AI/遠隔診療

電子お薬手帳

■ 受診

■ 購入

■ 製品提供

ウェアラブル端末

■ 購入

- ・医療機器
- ・再生医療等製品
- ・ヘルスケア関連企業

# 健康・医療分野における市町村の役割の拡大

高齢化が進展する中、「健康寿命の延伸」や、住み慣れた地域で暮らし続けられる「地域包括ケアシステム」構築に向け、診断・治療などの医療サービスだけでなく、健康維持・疾病予防等が重要となっており、市町村の役割が拡大している。

健康状態に合わせ  
必要となる対応

健康維持・疾病予防

診断・治療

介護・介護予防\*

← 診断・治療から予防へ →

市町村の  
主な役割

- 健康づくり施策
- 各種けんしん  
(妊婦健診・乳幼児健診、  
特定健診・保健指導(市町村国保)、  
がん検診等)
- 生活習慣病の重症化予防  
など

・医療提供体制の整備  
(在宅医療介護連携など)

- ・介護保険
- ・高齢者保健福祉施策

健康維持・疾病予防においては、データを活用した保健指導が効果的であり、効率化による市町村の負担軽減にも大きな効果が期待できる

\* 介護については、重症化を予防することにより健康寿命を延ばすことになる

# <参考>レセプト・健診データの活用例（広島県呉市）

## レセプト・健診データの分析によるデータヘルスの取り組み支援 (ICTを活用した独自のレセプト分析技術による医療費適正化)

地方創生に資する  
「地域情報化大賞」  
部門賞受賞

(株)データホライゾン(広島県広島市)が、広島県呉市の医療費適正化や健康寿命の延伸といった課題に対処するため、レセプト(診療報酬明細書)データを独自のICT技術で分析し、効率的・効果的な保健事業(データヘルス)の実施に必要な情報を提供するサービスを実施

データホライゾン

呉市(保険者)

被保険者



ジェネリック医薬品への切替で医療費削減効果約1.5億円(H25年度)  
糖尿病性腎症重症化予防で国保被保険者の透析移行遅延に貢献

- ・糖尿病性腎症重症化予防
- ・受診勧奨指導
- ・重複・頻回受診者指導
- ・ジェネリック医薬品利用促進通知等

## 医療費適正化と被保険者の健康増進に貢献

- ・ データを活用した保健事業により医療費の適正化を図る
- ・ 保健事業の実施に必要な人材(保健師・看護師など)の雇用創出に貢献
- ・ 被保険者の健康増進により健康寿命の延伸や生産年齢人口の確保に貢献
- ・ 呉市の保健事業が「データヘルス」のモデルケースとなり、全国の自治体へ横展開へ

出典：総務省「ICT地域活性化事例 100選」

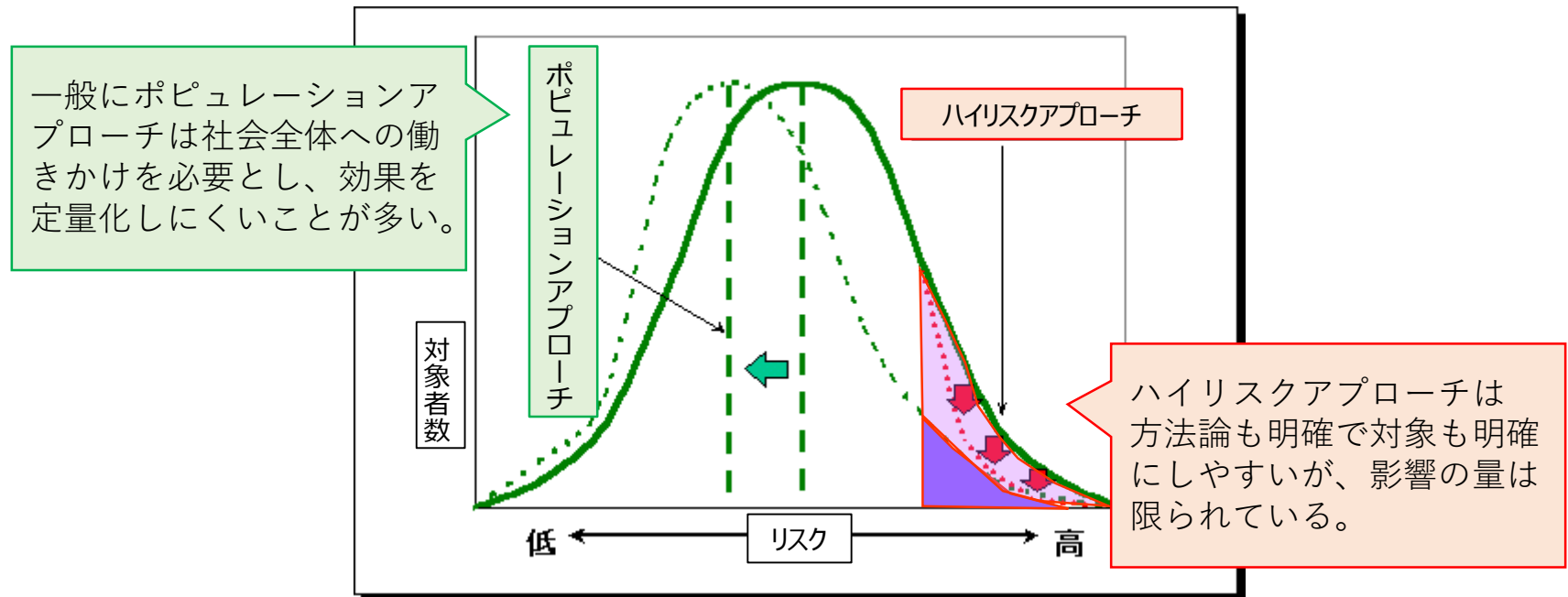
# 効果的な保健事業のアプローチ

## ■ ハイリスクアプローチ

健診データやレセプトデータにより疾患の発症リスクが把握された対象者に介入し、リスクを軽減することによって、疾病を予防する方法

## ■ ポピュレーションアプローチ

対象を限定せず集団全体に健康づくりの情報やサービスを提供するなどの働きかけを行うことにより、集団全体のリスクを低い方に誘導する方法



参照：健康日本21

ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチを適切に組み合わせて、対策を進めることが必要

# 大阪市の取組み（ハイリスクアプローチ）

## ■ 特定健診結果等に基づく生活習慣病対策

	<p>特定健診 対象者：40歳以上（約40万人） 受診率：22.6%（H29年度）</p>
<p>国保</p>	<p>特定保健指導 対象者：約11,000人 実施率：6.0%（H29年度）</p>
	<p>高血圧症・糖尿病重症化予防（※1）</p> <p>システムにより以下の対象者を抽出し、保健師による個別フォローを実施 対象者：3,952人（H30年7月～R1年6月）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>収縮期血圧180mmHg以上または拡張期血圧110mmHg以上 HbA1c7.4%以上 空腹時血糖250mg/dl以上 服薬なしのうちeGFR60ml/分/1.73㎡未満かつ尿蛋白+以上</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>H29年度対象者（4,228人）の翌年の特定健診結果分析（国保）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収縮期血圧：179.7±15.8→153.0±22.7mmHg</li> <li>・HbA1c：8.4±1.2→7.8±1.3</li> <li>・eGFR:52.4±7.5→54.5±10.2 など</li> </ul> </div> <div style="background-color: #f00; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> <p>効果有</p> </div> </div>
	<p>糖尿病性腎症重症化予防事業（※1）</p> <p>システムにより以下の対象者を抽出し、受診勧奨及び希望者への6か月の保健指導 対象者：537人、プログラム参加28人（H30年度）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>HbA1c6.5%以上かつ尿蛋白（+）以上 HbA1c6.5%以上かつ eGFR15以上60ml/分/1.73㎡未満 空腹時血糖126mg/dl以上かつ尿蛋白（+）以上 空腹時血糖126mg/dl以上かつeGFR15以上60ml/分/1.73㎡未満 上記該当者のうち、直近3か月のレセプト確認により、糖尿病での未治療者</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>H30年度プログラム参加者のプログラム前後の検査値分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体重：65.7→63.9</li> <li>・BMI（22以上の方を評価対象）：27.1→25.9</li> <li>・収縮期血圧（130以上の方を評価対象）：145.5→130.6mmHg</li> <li>・HbA1c：7.0→6.5 など</li> </ul> </div> <div style="background-color: #f00; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> <p>効果有</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>国保加入者 HbA1c8.0%以上の未治療割合 ・事業開始前 17.8%（H26）→ 事業開始後 14.8%（H29）</p> </div>
<p>生保</p>	<p>大阪市健診（※1） 対象者：40歳以上の方で生活保護を受給中の方（約12万人） &lt;高血圧症・糖尿病重症化予防 対象者：99人（H29年度）&gt;</p>
	<p>被保護者健康管理支援事業（※2） 対象者としてレセプトから糖尿病等の生活習慣病による受診があり、重症化に至っていないと考えられる者を抽出し、支援の効果が期待しやすいと考えられる者へ面談・同行受診を実施 対象者：2,121人、支援者231人（同行受診57回）（H30年8月～R1年3月）</p>

※1 健診データ等により抽出・生活習慣データを含め指導

※2 生保レセプトデータを活用



# 大阪市の取組み（ポピュレーションアプローチ）

## ■ 生活習慣病の発症予防・ライフステージに応じた生活習慣の改善

健康寿命に影響する要因（疾患）の発症予防とライフステージに応じた生活習慣の改善のための取組み

### <栄養・食生活>

- 適切な量と質の食事の摂取のための取組み
  - ・若い世代とその保護者に対する「食育講座」の実施
- 食をとりまく環境の整備
  - ・栄養成分表示やヘルシーメニュー等の提供等に取り組む飲食店の数の増加
    - ※(株)ぐるなびと連携した飲食店における野菜摂取量を増やす取組み等
  - ・イベント、講座等による栄養成分表示を参考に食を選択するための活用方法の啓発

### <身体活動・運動等>

- 身体活動や運動等に対する意識の向上を図るため、各種保健事業において、普及啓発活動を積極的に展開するとともに、実践につなげられるよう動機付けを図る。
- 健康教育（地域に出向いて実施する健康講座・各種イベント）
    - ※健康運動指導士の活用、各区健康づくり推進協議会等との連携
  - 健康相談
  - リーフレット等を活用した発信

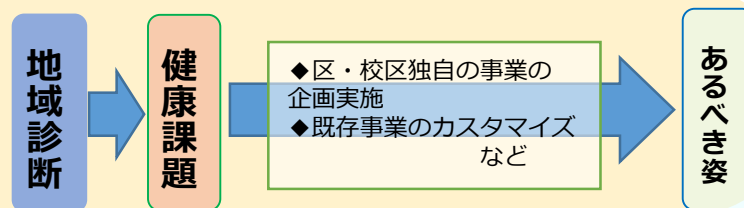
### <参考：データの活用>

#### 量的データ分析

- ・国勢調査 ・保健衛生データ ・保健事業統計（国：E-Stat）
- ・庁内ポータル（保健医療対策課：**保健衛生データライブラリー**）
- ・国保システム（保険年金課：**KDBデータ**） ・介護保険見える化システム など

#### 質的データ分析

- ・住民の生活の実態・地域の人の生の声
- ・地域住民へのインタビュー調査 など



## ■ 健康を支え、守るための地域づくり

### <すこやかパートナー制度>

現在278の企業、団体、NPO法人等に「すこやかパートナー」として登録 いただき、連携・協力して健康づくり運動を進めている。

### <おおさか健活マイレージアスマイルの活用>

スマホにアプリをインストールし、イベント参加や健診受診でポイントが貯まって電子マネーが当たるなど。（大阪府事業）

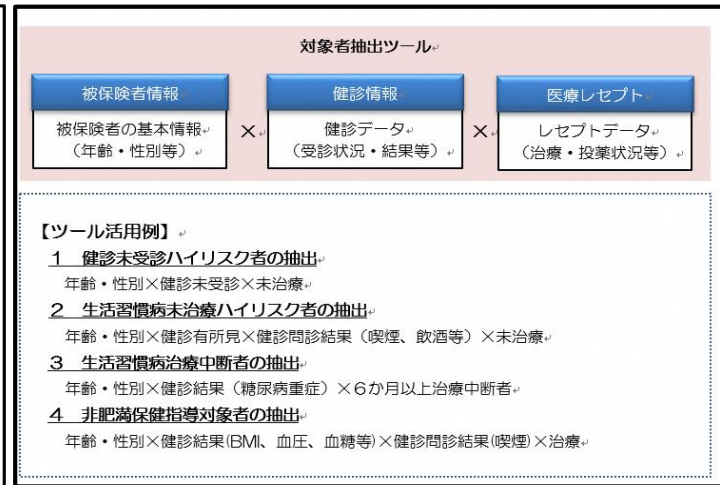
# 大阪府の取組み（データを活用した市町村保健事業支援）

## ◆データ活用・分析に関し、市町村保健事業への支援を実施

### 【保健事業におけるデータ活用の環境整備】

- ・地域の特性がわかり、地区診断に役立つツールと保健事業の対象者の抽出が簡単にできるツールを作成・全市町村に配布（H30年度）
- ・活用に向け研修会等を通じ普及（R元年度～）

市町村・地域差見える化支援ツール	保健事業の対象者抽出ツール
<p>公的統計、健診データ等の指標を地図上で重ね合わせ、健康指標の地域差や特徴等を中学校区単位で「見える化」するツール</p> <p>⇒各地域の課題に対応した効果的・効率的な保健事業の展開</p>	<p>特定健診未受診者、生活習慣病の高リスク者などの市町村保健事業の対象者を各市町村のKDBデータから細かな条件設定で容易に抽出できるツール</p> <p>⇒治療中断者などが把握可能</p>



### 【データを活用した保健事業の質的向上支援】

- ・効果的な保健指導を支援するためのプログラム開発とそれに必要なツールの作成、指導力向上に向けた研修会開催（H30年度～）（28市町村が研修参加し、8市でプログラムの実施検証中（阪大公衆衛生教室（野口先生）に委託）
- ・データ等を活用し課題と原因（背景）を明らかにし、対応策を検討する介入支援を学識経験者（大学医師・保健師等）とともに実施（5市町村・R元年度～）
- ・糖尿病性腎症重症化予防に取り組めていない市町村を中心に、アドバイザーを派遣し、データ分析等を通じた地域の糖尿病の課題の明確化や、専門医・医師会（かかりつけ医）・市町村のネットワークの構築を支援（R元年度～）

## 先端テクノロジーを推進力に、大阪府市医療戦略会議で示された“7つの具体的戦略”を進める

### ■ 7つの具体的戦略

戦略案	メインとなる主体	キーとなる視点	ねらい	取組みに関わる他の主体
① 予防・疾病管理、府民行動変革	府民 保険者等	× 主役は消費者 治療から予防へ	→ 健康指標の向上 健康格差の解消	保健医療提供機関等、 基礎自治体、大阪府等
② ICTデータの 戦略的活用	保険者等	× 支払者の行動変革 医療費適正化 医療の標準化	→ 医療の価値追求	府民、 保健医療提供機関等、 研究機関、大阪府等
③ 医療情報の電子化と ビッグデータの 戦略的活用	大阪府	× 創業等IT支援 医療データベース構築	→ 情報管理産業化	保険者等、 保健医療提供機関等
④ 地域密着型 医療・介護連携 最適モデル実現	医療・介護従事者 保健医療提供機関等 基礎自治体	× 多職種・多機関連携 市町村の主体性	→ 保健医療サービス 持続可能性確保	大阪府
⑤ 増益モデル型 民間病院の高度化・ 経営基盤強化	民間病院 大阪府	× 増益モデル型 地域や規模の経済 資金調達システム	→ 重要戦略産業振興 生活総合産業化	大阪府
⑥ スマートエイジング・ シティ	基礎自治体 大阪府	× サプライチェーン 仕組み・構造変革 まちづくり	→ Aging in Place	府民 保健医療提供機関等 企業
⑦ スマートエイジング・ ハレー構想 (産業振興)	大阪府	× 研究・開発 実証インフラ 認証制度		企業・研究機関等

テクノロジー（ICT）  
を活かすことによる効果  
【例】

健診データを活用した  
保健指導

レセプトデータ分析による  
疾病管理

ビックデータ解析に基づく  
医療政策の策定

データ連携によるシームレスな  
医療・介護

AIやRPAを活用した  
病院経営の効率化

PHR、遠隔医療、クラウド化など  
ICT全般

データ基盤を核とした  
コンソーシアムの構築